

本研究においては、イタリア 16 世紀の画家ペリーノ・デル・ヴァガの絵画や素描作品群の様式的特徴を分析し、彼がローマにおいてラファエロの工房で学んだスキルや画法、フォルムなどが、どのような形で他地域に普及していったか、を明らかにすることを試みた。昨年度に取り上げたパルミジャーノのケース・スタディと同様に、16 世紀初頭のローマ教皇庁で繁栄した宮廷芸術様式であるマニエリスムが、どのような経緯でイタリア全土、そして更には国際様式として他のヨーロッパ地域に伝播していったのかを、ペリーノ・デル・ヴァガという芸術家の物理的な移動と、人的交流の観点から検証することを目的に遂行した。

ペリーノは、フィレンツェに生まれ幼少の頃から画家に弟子入りして腕を磨いていたが、1515 年頃にローマに移り、数年後にはラファエロの工房で仕事をしていた。教皇の交代や伝染病の流行などが原因で一時フィレンツェにもどるが、1528 年にジェノヴァに移るまで、ローマで制作活動をしていた。ジェノヴァではアンドレア・ドーリアの宮殿の装飾などの制作に従事していたが、1538 年頃までには再びローマに舞い戻り、晩年をそこで迎え 40 代後半の 1547 年にこの世を去った。ラファエロ工房に所属していた 10 代後半から 20 代後半までの 10 年間と、ジェノヴァでの 10 年間、そして 30 代後半から 40 代を過ごしたローマでの活動期に作品群を分類し、それぞれの作品に見られる様式的特徴を検証することで、ペリーノ・デル・ヴァガを媒体にローマからジェノヴァに伝播した芸術のフォルムや技巧などをより明確に把握できるケース・スタディだと考えて取り組んだ。

まだ 10 代半ばで既に絵画の才能の頭角を現していたペリーノは、ヴァガというフィレンツェの画家に連れられて憧れのローマに向かった。その後、彼がペリーノ・デル・ヴァガと呼ばれるようになった由縁である。ヴァザーリの『芸術家列伝』は、ペリーノがミケランジェロの作品に学びつつ、ラファエロの工房に所属したと報告するが、彼は、当時のローマの芸術界の中心に位置する二人の巨匠のスタイルに学び、自身の芸術様式を形成していった。これは、例えば、昨年度の研究テーマであったパルミジャーノのケースと同様で、ペリーノもマニエリスム芸術の成り立ちをそのまま体現していることを語っている。つまり、当時のローマ教皇庁で趣向されたマニエリスム芸術は、ミケランジェロとラファエロの様式を軸に、より洗練

や優美を追求した様式なのだが、それは次世代の若者が両巨匠の作品を基礎として学んでから展開された。ペリーノもマニエリスム芸術の代表的な担い手であり、伝播の問題の例証として適切なケースであることは、ヴァザーリの折紙付なのである。

拙論では、先ずイギリスのウインザー城のロイヤル・コレクションの *Two Soldiers Carrying off a Young Man* や *Jonah* などの素描を検証し、ペリーノのラファエロ工房時代の様式的特徴を詳細にわたって確認した。四肢の筋肉や骨、筋などの描写には、ミケランジェロのシステーナ礼拝堂天井画の人物像に見られるフォルムや画法が見られ、顔面や頭部の描き方はラファエロ工房の兄弟子ジュリオ・ローマーノの画法やフォルムとの類似点を多く確認することができた。身体表現の際の解剖学的な要素は勿論、多数の人物像を画面に描くときの人物像の重なり合い方や、配置、建築物の壁や柱などを絵画空間の構築の軸に使いながら画面に正確な奥行きをもたらす点や、装飾の質の高さなど、当時のローマのラファエロ工房の様式的特徴を彼が全て吸収していることを確認できた。

そして次は、ペリーノがジェノヴァのアンドレア・ドーリアの為に装飾した *Plazzo del Principe Andrea Doria (Palazzo del Principe a Fassolo)* の *Fall of the Giants* を詳細にフォーマル・アナリシスした。その際、手続きとして、彼のローマ時代の作品やラファエロ工房の作品に見られる様式的特徴と比較しながら、類似するフォルムや技巧を具体的に確定した。更には、彼が再びローマに戻った 1530 年代末から 1540 年代の作品 *A Design for an overdoor with allegorical figures of Ecclesia and Concordia* や *A Design for an Inkstand*、*Juno Visiting Aeolus and Neptune Calming the Tempest* などを検証し、第一回ローマ期、ジェノヴァ期、第二回ローマ期に共通するフォルム、画法、技巧、構図などを確認した上で、特にジェノヴァ期においてペリーノがローマから持ち込んだ芸術の要素がどのようなネットワークにおいて流通し、継承されたかという問題に取り組んだ。昨年度のパルミジャーノの研究と同様に、George Kubler の *The Shape of Time* の理論を用いて、芸術の伝播をペリーノ・デル・ヴァガのケースを例として具体的に説明することに努めた。